理事長講演

2026年11月21日(土) 12:50 ~ 13:20 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

理事長講演

司会：宮島 伸宜（松島病院大腸肛門病センター）

[CL] 日本大腸肛門病学会の未来への期待

*板橋 道朗[1] (1. 埼玉県済生会　加須病院)

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会

理事長講演

2026年11月21日(土) 12:50 ~ 13:20 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

理事長講演

司会：宮島 伸宜（松島病院大腸肛門病センター）

[CL] 日本大腸肛門病学会の未来への期待

*板橋 道朗[1] (1. 埼玉県済生会　加須病院)

本学会は大腸肛門病学における研究、教育及び診療の向上を図るとともに、国民の健康と福祉に寄与することを目的にしています。1940年に「日本直腸肛門病学会」が創立され、1966年には「日本大腸肛門病学会」に改称され会員が領域横断的に活動する学会として発展してきました。
学術集会では先端的な研究から領域横断的なセッションまで工夫を凝らした内容が盛りだくさんinternational sessionも組まれるようになりました。教育セミナーは会員の利便性と教育効果を鑑みe-learningを取り入れてきました。機関誌は多くの貴重な論文が掲載され、国際的な認知向上が期待されます。また、本学会が刊行の肛門疾患（痔核・痔瘻・裂肛）・直腸脱診療ガイドラインは改訂作業がすすんでいます。
学会の国際交流は重要で、欧州、米国、韓国、中国などの学会との連携を深めています。ESCP fellowshipに加えてASCRSとの間でも同様のfellowshipが開始されています。また、若手医師トラベルグラント制度の導入を検討しています。また、若手医師の入会を促進、様々な魅力のある運営を行うことで本学会会員数が増加するよう努めます。さらに、女性会員の育成を促進し、評議員や役員への登用を推進してまいります。
専門医に関しては喫緊の課題は二つあります。まず、大腸肛門病学会専門医の日本専門医機構の位置づけであります。標ぼう可能な単なる専門医ではなく、本学会が権威を持って認定できる修練制度を確立・維持することが重要であります。状況によっては、現在のまま学会独自の専門医制度を維持する選択肢もあります。この課題解決に向けてWGを作成、今後も必要性を熟慮し専門医制度の修正や制度の変更を検討していきます。
二つ目は、医学的な治療成績の優位性を明らかにすることです。専門医は、非専門医を比べて治療成績が優れているなど、本学会専門医の診療は質が高く治療成績が良いことをデータで示し専門医の診療の質を証明する必要があります。このような経緯から専門医の質を示すWGを設置、さらに発展的に学術委員会に統合しています。
皆さんと協力して、さらに魅力ある学会にしてまいりたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会